

8 除 籍

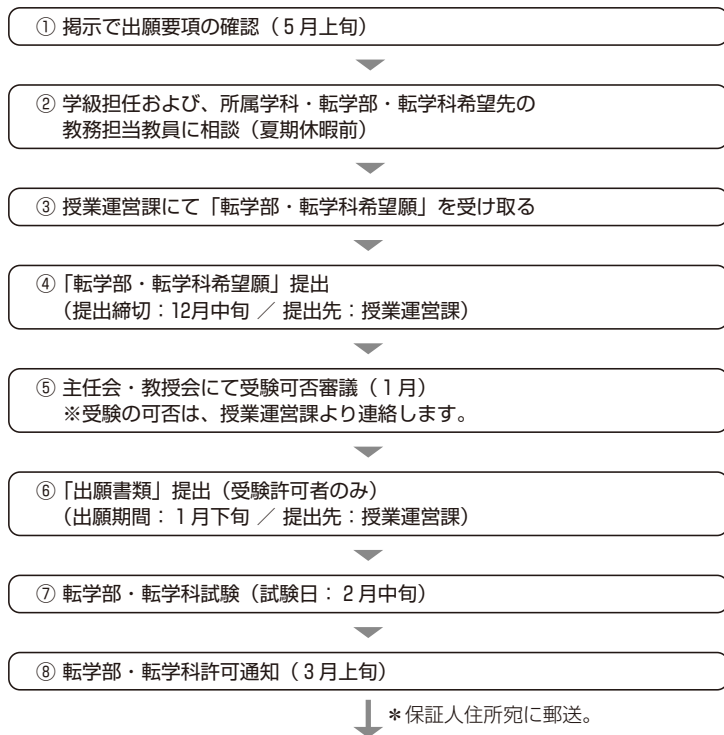
次に該当する場合は、除籍の対象となります（学則31条、大学院学則31条）。

- ① 在学年数が所定の年数を超える場合
- ② 授業料等の納付金を滞納し、督促してもこれに応じない場合
- ③ 休学期間の満了日に達しても、なお就学できない場合
- ④ 休学期間満了となっても所定の手続きをとらない場合
- ⑤ 死亡または行方不明になった場合

9 転学部・転学科（大学院は「転研究科・転専攻」）

転学部・転学科については希望先の学部・学科に欠員があり、その後の学修に支障がないことも含めて選考します。

1 手続きの流れ



次年度4月1日より 転学部・転学科

- * 出願後学修継続条件・履修条件（進捗チェック）に抵触した場合は、転学部・転学科が不許可となります。
- * 転学部・転学科後の学籍番号は入学時から変更しません。

▶ 除 籍

学生の身分を失うこと

▶ 転学部・転学科

転学部：在学中に本学の他の学部に移って学修を続けること
転学科：学部は変わらないが、他の学科に移って学修を続けること

- ▶ **学修継続条件**
参照『履修ガイド』
p.33
- ▶ **履修条件(進捗チェック)**
参照『履修ガイド』
p.34

- ▶ **修得単位数から見た学年**
参照『履修ガイド』
p.25

- ▶ **退学/除籍**
参照『学生生活ガイド』
p.52～53

- ▶ **玉川大学再入学に関する規程**
参照『学生生活ガイド』
p.160

2 転学部・転学科の出願資格

- 第2 Semester（1年次）あるいは第4 Semester（2年次）、第6 Semester（3年次）に在籍している者
 - 学修継続条件・履修条件（進捗チェック）に抵触したことがない者
 - 出願の理由が正当と認められる者
- * 学部によってほかに出願条件がある場合があります。事前に掲示で確認してください。

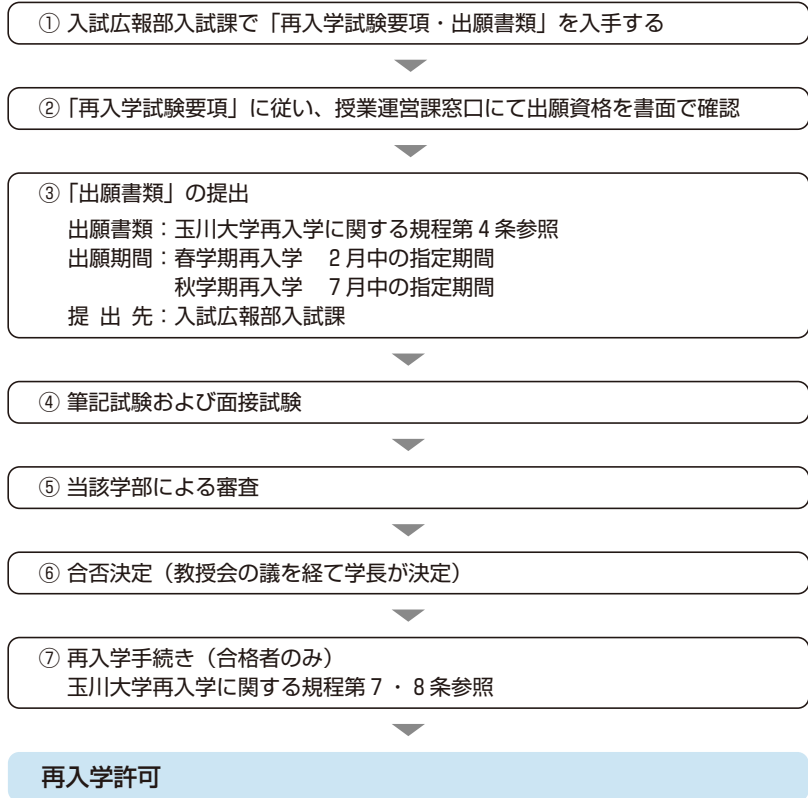
3 転学部・転学科にともなう単位の認定と履修

- 単位認定方法や認定される単位数と科目は、学部・学科や、その学生の単位修得状況により、一律ではありません。
- 履修計画に関しては、転学部・転学科先の教務担当教員に相談し、指導を受けるようにしてください。認定単位数および科目は転学部・転学科する学生の単位修得状況等により受け入れ学部の会議で審議のうえ認定・決定します。
- なお、転学部・転学科した場合には、卒業要件単位として「B」評価以上の科目のみ加算されます。
- 受け入れ学年は、卒業要件単位数に基づき「修得単位数から見た学年」の規定に従って決定します。

10 再入学

本学を途中で退学（依願退学）した者、あるいは除籍（授業料未納による除籍者）となった者が、再入学を希望する場合、欠員がある場合に限り選考のうえ、許可することがあります。

1 手続きの流れ



2 出願資格

■ 再入学の資格を有する者

- 再入学日が退学日または除籍日より5年以下の者で、以下のいずれかに該当する者（再入学に関する規程第2条第1項）。

ただし、大学院生の場合は退学後2年以内の者（大学院学則第32条第2項）。

- ① 依願退学者
- ② 授業料等未納による除籍者

*ただし、未納分の学費を完納することが条件（再入学に関する規程第9条）

■ 再入学の資格を有しない者（再入学に関する規程第2条第2項）

- 在学中に2回以上学習継続条件の警告を受けた者
- 懲戒による退学処分者
- 最長在学年数の規程により、退学した者
- 再入学した後、退学または除籍された者

■ 再入学試験の出願時期

- 春学期の途中（成績認定なし）に退学した場合には、最短で次年度の春学期に再入学可能とする。
- 春学期末（セメスター末）に退学した場合には、最短で次年度の秋学期に再入学可能とする。
- 秋学期の途中（成績認定なし）に退学した場合には、最短で次年度の秋学期に再入学可能とする。
- 秋学期末（セメスター末）に退学した場合には、最短で次々年度の春学期に再入学可能とする。

3 その他

- 再入学を出願できる学科コースは、原則として在学時に所属していた学科・コースとします。
- 在学時に修得した単位の中から「B」評価以上の単位のみ認定します。認定単位数に基づき再入学後の学年を決定します。
- 再入学生生の修業年限は、退学または除籍以前の在籍年数と通算して4年とし、在学年数も退学または除籍以前のそれと通算して8年を超えることはできません。

▶ 玉川大学学則

参照『学生生活ガイド』
p.150～159

▶ 学修継続条件

参照『履修ガイド』
p.33